

聖隷浜松病院

手外科・マイクロサージャリーセンター  
クリニカルフェロー

申請書類、選考方法、研修時必要知識・技量、研修内容・達成目標

聖隷浜松病院、手外科・マイクロサージャリーセンターは、手外科・マイクロサージャリーに興味があり、特に将来手外科専門医を目指す医師に対してクリニカルフェロー制度を行っている。当センターでは日本手外科学会認定手外科専門医制度・研修カリキュラムに則った研修が可能である。

以下にクリニカルフェローを志願する医師が研修時に必要とする知識・技量、およびクリニカルフェロー応募時に必要な種類・選考方法、主要研修項目と各項目の達成目標を示す。

## 研修時に必要とする知識・技量

- 1) 整形外科もしくは形成外科専門医に相当する知識および技量
- 2) デブリードマン
- 3) 簡単な骨折・脱臼の従手整復術
- 4) 簡単な骨折内固定術
- 5) 簡単な植皮術
- 6) 血管縫合の経験（ラットだけでも良い）
- 7) 手外科のセミナーなどへの数回の参加（例：日本手外科学会教育研修、新潟手外科セミナーなど）

## 申請書類

- 1) 履歴書
- 2) 推薦状（できるだけ人事権のある先生に書いていただくことが望ましい。）
- 3) 研修応募理由（400 字以内）
- 4) 研修時に必要とする知識・技量
- 5) 過去のすべての学会・研究会の発表歴、論文などの実績
- 6) 手術件数
- 7) 手外科のセミナーなどへの数回の参加（日本手外科学会教育研修会、新潟手外科セミナーなど）
- 8) 研修前の手外科に対する能力表

※1) ～8) を総合して判断しフェロー採用を決定いたします。

なお、5) ～8) は全てを満たさないと採用しないわけではありません。あくまでも採用および採用後の研修・教育の参考資料として提出していただきます。

## 選考方法

- 1) 面接試験など

## 研修項目

- 1) 外来診療・救急診療、入院患者担当（主治医および担当医として）
- 2) 手外科検査
- 3) 手術助手および執刀（年間300～400 件）
- 4) ハンドセラピー
- 5) センターの土曜日モーニングレクチャー担当（最低年2 回）
- 6) 学会・研究会での発表（最低年2 回）

当センターでは日本手外科学会認定手外科専門医制度・研修カリキュラムに則った研修が可能です。

## 主な週間予定（フェローの1 例です）

	月	火	水	木	金
朝	レクチャー	カンファランス	回診	カンファランス	カンファランス
午前	外来	手術	手術	手術	外来
午後	外来	手術	手術	手術	外来

※そのほか平日昼間および夜間の救急当番が週に2 回程度、土日祝日の救急当番が月に2 回程度あります。

## 研修内容・達成目標

### 【主要研修目標・研修項目・達成目標】

達成すべき：☆☆☆ 達成した方が良い：☆☆ 今後の課題：☆

### 【外来診療】

患者診察： ☆☆☆  
的確な検査オーダー： ☆☆☆  
各種外固定法： ☆☆☆  
ハンドセラピィオーダー： ☆☆☆  
装具処方： ☆☆☆

### 【検査】

筋電図： ☆☆☆  
神経伝導速度： ☆☆☆  
関節造影： ☆☆☆

### 【手術・後療法】

#### 開放創・組織欠損の治療

デブリードマン： ☆☆☆  
各種ドレッシング： ☆☆☆  
植皮術： ☆☆☆  
局所皮弁： ☆☆☆  
有茎皮弁： ☆☆（有茎そ径皮弁： ☆☆☆）  
遊離皮弁： ☆

#### 骨折・脱臼治療

開放骨折デブリードマン： ☆☆☆  
従手整復： ☆☆☆  
手術治療： ☆☆☆  
後療法： ☆☆☆

#### 腱損傷

権縫合（屈筋腱、伸筋腱）： ☆☆☆  
後療法： ☆☆☆

#### 神経・血管損傷

神経縫合： ☆☆☆  
腕神経損傷： ☆  
血管縫合： ☆☆☆  
静脈移植： ☆☆☆

後療法：☆☆☆

### 切断指

断端形成：☆☆☆

再接着：☆☆

後療法：☆☆☆

### 外傷以外

腱鞘炎（バネ指・ドケルバンなど）：☆☆☆

手根管症候群：☆☆☆

肘部管症候群：☆☆☆

胸郭出口症候群：☆

その他の絞やく性神経障害：☆☆☆

腱移植：☆

腱移行：☆（ただしCamitz法などの簡単な腱移行は☆☆）

リウマチ手：☆

骨偽関節手術：☆☆（ただし血管柄付き骨移植は☆）

無菌性壊死：☆☆（ただし血管柄付き骨移植は☆）

腱剥離術：☆☆

関節拘縮解離術：☆☆

手足の先天性疾患：☆